



# サハリン樺太史研究会 2022 年度活動報告書

2023 年 8 月 23 日  
サハリン樺太史研究会

# —2022 年度活動報告書—

## 目次

会長あいさつ

活動概要

例会・関連シンポジウム等

研究成果刊行物（付：参考資料 非会員による研究成果刊行物）

研究プロジェクト（付：参考資料 非会員による研究プロジェクト）

サハリン樺太史研究会会則・役員

## 報告書刊行について

本会は 2008 年 7 月に発足した。その後、例会開催、共同調査実施を重ね、さらに 2010 年には研究会誌を刊行、2011 年より公式 HP を開設し、研究会内外への発信にも力を入れるようになった。年度活動報告書も 2008 年度分から刊行し、2022 年度活動報告書は 14 冊目の年度活動報告書となる。

2011 年度分以降、参考資料として非会員の研究動向も日本国内限定ではあるものの掲載することとした。このことによって、日本国内のサハリン樺太史研究全体における本会の位置がより明確になろうし、また本報告書によって、完全にまでとはいかないものの、日本国内におけるサハリン樺太史研究の全体的動向を俯瞰することが可能になればと編者として願う。

なお、本報告書記載の情報の一部はインターネット上の情報を参照したものであり、若干の不正確さが残っていることがあり得ることをことわっておく。また、会員については年度末時点で本会のメンバーリストに登録している者を指しており、当時は未会員であった場合もあることはご了承いただきたい。

本報告書の 2017 年度版までに掲載された文献については、下記より検索可能であり、一部ではあるが英文書誌情報や要旨なども閲覧可能である。2018 年度分以降も随時掲載していく予定である。本報告書各年度版と合わせて、サハリン樺太史研究の動向を知るために役立てば幸いである。

サハリン/樺太史研究文献 DB

[http://app.cseas.kyoto-u.ac.jp/infolib/meta\\_pub/G0000311karafutoHIS2](http://app.cseas.kyoto-u.ac.jp/infolib/meta_pub/G0000311karafutoHIS2)

2023 年 8 月 31 日

中山大将

（サハリン樺太史研究会世話人兼公式 Web サイト運営担当者）

## —会長あいさつ—

サハリン・樺太は、前近代においては先住民を担い手とした、大陸側から千島列島にいたる海を介した交易ルートの一環であり、近代には日本とロシアの接触地域をなし、両国間で何度も国境線の引き直しと大規模な人口移動が繰り返された特異な歴史を有する島です。

この島の呼称も、幕末までは「北蝦夷地」とよばれ、明治初年から「樺太」とよばれるようになり、全島ロシア領有に変わると「薩哈噠」の3文字が当てられました。日露戦争後の北緯 50 度以南日本領有により、ふたたび「樺太」となり、第二次世界大戦後はサハリンと呼ぶことが一般的となりました。

近年、この島に改めて歴史研究の光を当て、この島の住民が幾世代にも亘って関わった歴史的経験を捉え直そうとする機運が日本、ロシア双方で高まりつつあります。また、日本とロシアとの研究交流は、今世紀に入り、活発に行われるようになりました。たとえば、北海道大学スラブ研究センターとサハリン大学を拠点として、「ロシアの中のアジア／アジアの中のロシア」第 5 回研究会「サハリン・樺太の歴史」(2004 年 7 月 29 日～30 日)、同第 11 回研究会「サハリン・樺太史セミナー(Ⅰ)」(2005 年 9 月 21 日)、同第 13 回研究会「サハリン・樺太史セミナー(Ⅱ)」(2005 年 12 月 3 日)、「日本とロシアの研究者の目から見るサハリン・樺太の歴史」(2005 年 11 月 1 日～2 日、2006 年 2 月 16 日～17 日)、「国際シンポジウム：サハリンの植民の歴史的経験」(2008 年 5 月 6 日～7 日)と幾度も研究会が開催されてきました。そして 2008 年の「国際シンポジウム：サハリンの植民の歴史的経験」開催後に、シンポジウム参加者を中心に 2008 年 7 月、サハリン・樺太史研究会が発足しました(初代会長：原暉之北海道大学名誉教授)。

サハリン・樺太史研究会は、これまでの樺太史・サハリン史研究が日本、ロシアにおいて、それぞれ別個に行われてきたことを踏まえ、双方の研究成果を学ぶとともに双方の研究成果の交流、資料保存情報の交流などの研究交流を進め、「一國史」ととらわれないサハリン・樺太史を描くことを目標としています。

本会は札幌を拠点として研究会、シンポジウムを定期的に(年間 5 回程度)開催しております。これら研究会、シンポジウムは参加自由で、どなたでも参加できます。サハリン・樺太史の研究に関心をお持ちの方は、本会事務局にお知らせいただけましたら、案内メールを差し上げます。

2013 年 12 月 17 日

サハリン樺太史研究会会長 白木沢旭児(北海道大学大学院文学研究科教授)

## —活動概要—

### オンラインによる例会の本格的再開

新型コロナウイルス感染拡大の影響を乗り越え、今年度はオンラインによる例会を6回にわたり開催することができた。従来は各回2名の報告者を設定していたが、オンライン開催であるため会場や参集の手配コストが低く抑えられることから、報告者1名でも適宜例会を開催する新方式を採用した。

### 原暉之、兎内勇津流、竹野学、池田裕子編著『日本帝国の膨張と縮小』刊行

原暉之・元会長が代表を務めていた科研共同研究を基にした論文集『日本帝国の膨張と縮小：シベリア出兵とサハリン・樺太』が北海道大学出版会スラブ・ユーラシア叢書第16巻として刊行された。同叢書第10巻として原暉之編著『日露戦争とサハリン島』（2011年）に刊行されており、「戦争」がサハリン島に与えた影響を多面的に論じる研究書としてこれに続くものである。とりわけ、本書は日本側では研究の少なかった「北サハリン」「北樺太」について詳細に論じた意義を持つと言える。

### 富田武『日ソ戦争南樺太・千島の攻防』、日ソ戦争史研究会編『日ソ戦争史の研究』刊行

富田武『日ソ戦争南樺太・千島の攻防』（みすず書房）と、白木沢旭児・現会長が代表を務めていた科研共同研究を基にした論文集『日ソ戦争史の研究』（勉誠出版）が刊行された。サハリン島をめぐる近代第三の「戦争」である日ソ戦争について外交・軍事にとどまらず、多様な分野、主体、地域、時代から論じることで、従来は「ソ連対日参戦」と表現されてきた「日ソ戦争」がひとつの研究テーマとして確立したと言えよう。なお、前者については今年度の第63回例会で書評会を実施した。

### 工藤信彦『樺太覚書』刊行

樺太出身で国語教育者として活動し、樺太史研究者の多くもお世話になってきた工藤信彦氏が数十年にわたり、樺太とは何だったのか、と問い続け書きためた論稿を、中山大将・会員が翻刻・編集した『樺太覚書』が北海道大学スラブ・ユーラシア研究センター境界研究ユニットから刊行された。

### 外国語の研究の翻訳と英語での発信

昨年度に引き続き、サハリンの研究者ディン・ユリアの論文「サハリン朝鮮人研究の資料と研究」（ヴェニアミン・テン訳、中山大将監修）が翻訳されたほか、天野尚樹会員が担当した *Oxford Research Encyclopedia of Asian History* のサハリン・樺太の項が公開され、また、パイチャゼ・スヴェトラナ会員の著書 *Identity, Language and Education of Sakhalin Japanese and Koreans* も刊行された。

### ソ連占領初期南サハリン史料勉強会

兎内勇津流会員が主催するソ連占領初期のソ連公文書の勉強会は、引き続き活動を続けている。

（2022年度末会員数：126名）

## —例会・関連シンポジウム等—

### ■ 第 60 回例会

日時:2022 年 06 月 11 日

場所:zoom によるオンライン方式

報告 帝国日本の植民地と樺太にみるいけ花、茶の湯、礼儀作法

: 高等女学校、博覧会、『樺太日日新聞』を中心に……………小林善帆(立命館大学)

### ■ 第 61 回例会

日時:2022 年 08 月 20 日

場所:zoom によるオンライン方式

報告 樺太は 1918 年制定共通法でなぜ「内地」とされたのか

: 大日本帝国憲法「日本臣民」・戸籍・徴兵令(兵役法)・衆議院議員選挙法・地方制度から  
……………白木澤涼子(北海道大学)

報告 樺太における朝鮮人の葛藤と交渉の歴史: 朴炳一の活動を中心に……………李俊榮(北海道大学)

……………評者 中山大将(釧路公立大学)

共催: 科学研究費助成事業基盤研究(C)「韓国の安山市におけるサハリン帰国者のホスト社会への適応問題: 若い世代を中心に」

### ■ 第 62 回例会

日時:2022 年 09 月 17 日

場所:zoom によるオンライン方式

報告 帝国法制秩序と樺太先住民: 植民地法における「日本国民」の定義……………加藤絢子(九州大学)

報告 第二次世界大戦後のサハリン(樺太)からの日本人の引揚げにおけるソ連税関の役割

……………ヴィクトリア・アントネンコ(北海道大学)

■ 第 63 回例会

日時:2022 年 12 月 17 日

場所:zoom によるオンライン方式

書評 富田武著『日ソ戦争 南樺太・千島の攻防:領土問題の起源を考える』(みすず書房、2022 年)

評者 黒岩幸子(岩手県立大学)

コメンテーター 井潤裕(北海道大学)

■ 第 64 回例会

日時:2023 年 02 月 18 日

場所:zoom によるオンライン方式

報告 対樺太輸送経路の形成と稚内の港湾都市誌 宗谷(本)線と鉄道省稚泊航路の形成をめぐって

..... 三木理史(奈良大学)

報告 1950 年代の国際政治と「スターリン・ノート」 講和問題をめぐる「グローバル・リンケージ」

..... 清水聡(開智国際大学)

■ 第 65 回例会

日時:2023 年 03 月 26 日

場所:zoom によるオンライン方式

報告 池田善長(著)『秘 昭和十八年度 樺太ニ於ケル農業技術水準並ニ其ノ発展ニ関スル調査報告書』について..... 竹野学(北海商科大学)

報告 工藤信彦『樺太覚書』の概要と意義..... 中山大将(釧路公立大学)

共催 人間文化研究機構グローバル地域研究推進事業「東ユーラシア研究」

北海道大学スラブ・ユーラシア研究センター拠点

日本学術振興会科学研究費補助金基盤研究(B)「冷戦期の日韓の歴史問題と越境的市民運動の研究」

(研究課題番号:22H00693)

## —研究成果刊行物—

(五十音順)

■ 浅野豊美 ..... 政治史

### 【論文集】

浅野豊美「共通利益による体制融和構想の破綻：ソ連の計画経済と北サハリン」原暉之、兔内勇津流、竹野学、池田裕子編『日本帝国の膨張と縮小：シベリア出兵とサハリン・樺太』北海道大学出版会、2023年3月11日。

■ 天野尚樹 ..... ロシア極東近現代史・北東アジア国際関係史

### 【論文集】

天野尚樹「位置を問うひと」工藤信彦著、中山大将編『樺太覚書』北海道大学スラブ・ユーラシア研究センター境界研究ユニット、2022年8月19日。

Naoki Amano, "Sakhalin/Karafuto," *Oxford Research Encyclopedia of Asian History*, Oxford University Press, 2022年10月19日 [<https://doi.org/10.1093/acrefore/9780190277727.013.673>]。

天野尚樹「引きちぎられた」南の境界：「日本」と沖縄と奄美のあいだ」池・炫周・直美、エドワード・ボイル編『日本の境界：国家と人びとの相克』北海道大学出版会、2022年11月25日。

天野尚樹「日ソ戦争樺太戦—八方山＝ハラミトーギのソ連兵」日ソ戦争史研究会編『日ソ戦争史の研究』勉誠出版、2023年2月15日。

天野尚樹「保障占領のポリティクス：帝国日本の統治とサハリン島民」原暉之、兔内勇津流、竹野学、池田裕子編『日本帝国の膨張と縮小：シベリア出兵とサハリン・樺太』北海道大学出版会、2023年3月11日。

■ 池田裕子 ..... 教育史

### 【著書】

原暉之、兔内勇津流、竹野学、池田裕子編『日本帝国の膨張と縮小：シベリア出兵とサハリン・樺太』北海道大学出版会、2023年3月11日。

### 【論文集】

池田裕子「樺太に関する覚え書き」を読んで」工藤信彦著、中山大将編『樺太覚書』北海道大学スラブ・ユーラシア研究センター境界研究ユニット、2022年8月19日。

池田裕子「1925年の樺太における「国民統合」：皇太子の行啓を中心に」原暉之、兔内勇津流、竹野学、池田裕子編『日本帝国の膨張と縮小：シベリア出兵とサハリン・樺太』北海道大学出版会、2023年3月11日。

\*【著書】…著書、編書、翻訳書など。【論文集】…定期刊行物以外の文献に掲載された論文など。【定期刊行物】…学術誌、紀要、会誌などに掲載された論文など。

井澗裕 ..... 建築・都市史

【論文集】

井澗裕「樺太国民義勇戦闘隊—国民皆兵の歪みとその余波」日ソ戦争史研究会編『日ソ戦争史の研究』勉誠出版、2023 年 2 月 15 日。

井澗裕「サハリン軍事占領と司法：「裁判の公平」「司法権の独立」をめぐる」原暉之、兔内勇津流、竹野学、池田裕子編『日本帝国の膨張と縮小：シベリア出兵とサハリン・樺太』北海道大学出版会、2023 年 3 月 11 日。

井竿富雄 ..... 政治史

【論文集】

井竿富雄「尼港事件と日本の政治・社会」原暉之、兔内勇津流、竹野学、池田裕子編『日本帝国の膨張と縮小：シベリア出兵とサハリン・樺太』北海道大学出版会、2023 年 3 月 11 日。

小山内道子 ..... 来日ロシア人史

【定期刊行物】

小山内道子「戦乱のウクライナから故国日本へ避難した降旗英捷さん：サハリン史との関わり」『ポストーク』、2023 年 1 月。

神長英輔 ..... 漁業史

【論文集】

神長英輔「革命・内戦・干渉戦期のサハリン州の漁業」原暉之、兔内勇津流、竹野学、池田裕子編『日本帝国の膨張と縮小：シベリア出兵とサハリン・樺太』北海道大学出版会、2023 年 3 月 11 日。

菊池勇夫 ..... 近世史

【著書】

関根達人、菊池勇夫、手塚薫、北原モコットウナシ編『アイヌ文化史辞典』吉川弘文館、2022 年 6 月 27 日。

【定期刊行物】

菊池勇夫「天保後期のエトロフ場所経営と雇和人：近江屋惣兵衛店『エトロフ御場所請負中勘定記録』より」『環オホーツクの環境と歴史』5 号、2022 年 6 月 30 日。

\*【著書】…著書、編書、翻訳書など。【論文集】…定期刊行物以外の文献に掲載された論文など。【定期刊行物】…学術誌、紀要、会誌などに掲載された論文など。



■ 倉田有佳 ..... 来日ロシア人史

【論文集】

倉田有佳「北サハリンから日本へ避難・移住したロシア人：1924－1925 年」原暉之、兎内勇津流、竹野学、池田裕子編『日本帝国の膨張と縮小：シベリア出兵とサハリン・樺太』北海道大学出版会、2023 年 3 月 11 日。

【定期刊行物】

倉田有佳「戦前の樺太の「ロシアパン」：記録と追憶」『日口交流協会会報 日口交流』、2022 年 7 月 1 日。

■ 黒岩幸子 ..... 日口関係史

【論文集】

黒岩幸子「樺太に関する覚え書き」に寄せて」工藤信彦著、中山大将編『樺太覚書』北海道大学スラブ・ユーラシア研究センター境界研究ユニット、2022 年 8 月 19 日。

黒岩幸子「ソ連による占領統治下の千島社会」日ソ戦争史研究会編『日ソ戦争史の研究』勉誠出版、2023 年 2 月 15 日。

■ 塩出浩之 ..... 政治史

【定期刊行物】

塩出浩之「書評 加藤絢子著『帝国法制秩序と樺太先住民 植民地法における「日本国民」の定義』『史学雑誌』、2022 年 10 月。

■ シュラトフ ヤロスラヴ ..... 日露関係史

【論文集】

ヤロスラヴ・シュラトフ「日ソ国交正常化交渉とサハリン問題：北京会議と日ソ基本条約の締結（1924－25 年）」原暉之、兎内勇津流、竹野学、池田裕子編『日本帝国の膨張と縮小：シベリア出兵とサハリン・樺太』北海道大学出版会、2023 年 3 月 11 日。

■ 白木沢旭児 ..... 日本近代史

【著書】

日ソ戦争史研究会（代表：白木沢旭児）編『日ソ戦争史の研究』勉誠出版、2023 年 2 月 15 日。

\*【著書】…著書、編書、翻訳書など。【論文集】…定期刊行物以外の文献に掲載された論文など。【定期刊行物】…学術誌、紀要、会誌などに掲載された論文など。

■ 鈴木仁 ..... 文化史

【定期刊行物】

鈴木仁「近代樺太における基幹産業の成立 漁業制度と開発政策の相互関係」『日本歴史』、2022 年 4 月。

■ 醍醐龍馬 ..... 外交史

【論文集】

醍醐龍馬「日露戦争後の樺太境界画定委員会」醍醐龍馬『小樽学：港町から地域を考える』小樽商科大学出版会、2023 年 3 月 31 日。

■ 竹野学 ..... 経済史

【著書】

原暉之、兎内勇津流、竹野学、池田裕子編『日本帝国の膨張と縮小：シベリア出兵とサハリン・樺太』北海道大学出版会、2023 年 3 月 11 日。

【論文集】

竹野学「「工藤学校」との出会いを思い返して」工藤信彦著、中山大将編『樺太覚書』北海道大学スラブ・ユーラシア研究センター境界研究ユニット、2022 年 8 月 19 日。

竹野学「北サハリンに進出した日本人商工業者の活動と引揚げ」原暉之、兎内勇津流、竹野学、池田裕子編『日本帝国の膨張と縮小：シベリア出兵とサハリン・樺太』北海道大学出版会、2023 年 3 月 11 日。

【定期刊行物】

竹野学「翻刻：池田善長(著)『秘 昭和十八年度 樺太ニ於ケル農業技術水準並ニ其ノ発展ニ関スル調査報告書』その 1」『北海商科大学論集』第 12 巻 1 号、2023 年 2 月 20 日  
[<http://hokuga.hgu.jp/dspace/handle/123456789/4555>]。

■ 田村将人 ..... 先住民族史

【論文集】

田村将人「1920 年代のサハリン先住民族の移動と国境の関係性：樺太庁による「オタスの杜」集住化」原暉之、兎内勇津流、竹野学、池田裕子編『日本帝国の膨張と縮小：シベリア出兵とサハリン・樺太』北海道大学出版会、2023 年 3 月 11 日。

【定期刊行物】

田村将人「樺太アイヌに関する民族学・文化人類学上の研究史」『国立民族学博物館調査報告』、2022 年 11 月 16 日 [<http://doi.org/10.15021/00009998>]。

\*【著書】…著書、編書、翻訳書など。【論文集】…定期刊行物以外の文献に掲載された論文など。【定期刊行物】…学術誌、紀要、会誌などに掲載された論文など。

■ 兎内勇津流 .....ロシア史

【著書】

原暉之、兎内勇津流、竹野学、池田裕子編『日本帝国の膨張と縮小：シベリア出兵とサハリン・樺太』  
北海道大学出版会、2023 年 3 月 11 日。

【論文集】

兎内勇津流「戦前のクリル諸島とサハリン島」宮脇昇、樋口恵佳、浦部浩之編著『国境の時代』大学教  
育出版、2022 年 5 月 25 日。

原暉之、兎内勇津流「本帝国膨張と縮小のモデルとしての北サハリン占領」原暉之、兎内勇津流、竹  
野学、池田裕子編『日本帝国の膨張と縮小：シベリア出兵とサハリン・樺太』北海道大学出  
版会、2023 年 3 月 11 日。

兎内勇津流「尼港事件はどのようにして起こったか：三月武力衝突とその前後」同上。

■ 富田武 .....ロシア史

【著書】

富田武『日ソ戦争南樺太・千島の攻防：領土問題の起源を考える』みすず書房、2022 年 7 月 19 日。

■ 中村和之 ..... 北東アジア史

【定期刊行物】

中村和之「モンゴル帝国時代のサハリン島の史料に見える方位のずれについて」『函館大学論究』、  
2022 年 10 月 [<http://doi.org/10.18896/00000376>]。

■ 中山大将 ..... 移民社会史

【著書】

工藤信彦著、中山大将編『樺太覚書』北海道大学スラブ・ユーラシア研究センター境界研究ユニット、2  
022 年 8 月 19 日 [<http://hdl.handle.net/2115/87292>]。

【論文集】

中山大将「『樺太覚書』の向こう側」工藤信彦著、中山大将編『樺太覚書』北海道大学スラブ・ユーラシ  
ア研究センター境界研究ユニット、2022 年 8 月 19 日。

中山大将「日ソ戦後のサハリン残留日本人問題：ソ連地域未帰還者問題の中の樺太旧住民」日ソ戦  
争史研究会編『日ソ戦争史の研究』勉誠出版、2023 年 2 月 15 日。

中山大将「北海道・樺太と帝国林業：排除から協力へ」中島弘二編『帝国日本と森林：近現代東アジア  
における環境保護と資源開発』勁草書房、2023 年 2 月 20 日。

\*【著書】…著書、編書、翻訳書など。【論文集】…定期刊行物以外の文献に掲載された論文など。【定期刊行物】…学術誌、紀  
要、会誌などに掲載された論文など。

中山大将「北サハリンと樺太」農林資源問題：〈北樺太〉農林資源調査と 1930 年代の木材輸入を中心に」原暉之、兎内勇津流、竹野学、池田裕子編『日本帝国の膨張と縮小：シベリア出兵とサハリン・樺太』北海道大学出版会、2023 年 3 月 11 日。

中山大将「樺太日本人慰霊碑はなぜ建立できたのか：日ソ戦後サハリンにおける樺太旧住民慰霊碑等建立のマイクロヒストリー」王柳蘭、山田孝子編『マイクロヒストリーから読む越境の動態』国際書院、2023 年 3 月 31 日。

【定期刊行物】

中山大将「境界地域サハリン・樺太の歴史から考えるウクライナと北海道の未来」『釧路公立大学地域研究』、2022 年 12 月 24 日。

中山大将、巫靚「日清戦争と日露戦争における〈残留〉の比較史研究：台湾島とサハリン島における境界地域史」『釧路公立大学紀要人文・自然科学研究』35 号、2023 年 3 月 19 日。

ユリア・ディン（ヴェニアミン・テン訳、中山大将監修）「サハリン朝鮮人研究の資料と研究：露日韓英各国語の研究状況」『境界研究』、2023 年 3 月 31 日

[<https://src-h.slav.hokudai.ac.jp/public/tcn/JapanBorderReview/no13/PDF/09.pdf>]

中山大将「食の〈質〉的貧困と合理性：樺太米食撤廃論から考える食の〈自由〉と食の〈正義〉」『農業史研究』57 号、2023 年 3 月。

■ 原暉之 ..... ロシア史

【著書】

原暉之、兎内勇津流、竹野学、池田裕子編『日本帝国の膨張と縮小：シベリア出兵とサハリン・樺太』北海道大学出版会、2023 年 3 月 11 日。

【論文集】

原暉之、兎内勇津流「本帝国膨張と縮小のモデルとしての北サハリン占領」原暉之、兎内勇津流、竹野学、池田裕子編『日本帝国の膨張と縮小：シベリア出兵とサハリン・樺太』北海道大学出版会、2023 年 3 月 11 日。

原暉之「V 字回復の先を模索するニコラエフスク：尼港事件の社会的背景」原暉之、兎内勇津流、竹野学、池田裕子編『日本帝国の膨張と縮小：シベリア出兵とサハリン・樺太』北海道大学出版会、2023 年 3 月 11 日。

■ パイチャゼ スヴェトラナ ..... 教育学

【著書】

Svetlana Paichadze, *Identity, Language and Education of Sakhalin Japanese and Koreans: Continual Diaspora*, Springer Cham, 2022 年 9 月 26 日。

\*【著書】…著書、編書、翻訳書など。【論文集】…定期刊行物以外の文献に掲載された論文など。【定期刊行物】…学術誌、紀要、会誌などに掲載された論文など。

■ 藤村建雄 ..... 軍事史

【定期刊行物】

藤村建雄「1945 年 8 月、ソ連軍樺太侵攻の激戦(特集 ロシアの極東侵略研究)」『丸』、2022 年 6 月。

■ ブル ジョナサン ..... 日本近代史

【論文集】

ジョナサン・ブル「引揚を難民として考える:大日本帝国崩壊の再評価」池・炫周・直美、エドワード・ボイル編『日本の境界:国家と人びとの相克』北海道大学出版会、2022 年 11 月 25 日。

ジョナサン・ブル(訳:白木沢旭児、兎内勇津流)「戦後初期の日本における満洲引揚者像と樺太住民の引揚」日ソ戦争史研究会編『日ソ戦争史の研究』勉誠出版、2023 年 2 月 15 日。

■ 松山紘章 ..... 社会史

【定期刊行物】

松山紘章「『樺太・薩哈噠くサガレン』(北樺太)絵葉書アルバム帳』からみるサハリン島の景観」『非文字資料研究センター News Letter』、2022 年 9 月 30 日 [<http://hdl.handle.net/10487/00018322>]。

■ 三木理史 ..... 歴史地理学

【論文集】

三木理史「北サハリン占領と島内・外の交通体系: サハリン島の一島支配と輸送」原暉之、兎内勇津流、竹野学、池田裕子編『日本帝国の膨張と縮小:シベリア出兵とサハリン・樺太』北海道大学出版会、2023 年 3 月 11 日。

■ 山田祥子 ..... 言語学・民族学

【定期刊行物】

山田祥子「〈資料紹介〉池上文庫公開シリーズ 2:北海道立北方民族博物館が所蔵する池上二良氏の音声資料(引照付きリスト)」『北海道立北方民族博物館研究紀要』32 号、2023 年 3 月 24 日。

山田祥子「ウイльта語北方言テキスト:お母さんのこと」『北海道言語文化研究』21 号、2023 年 3 月 31 日 [<https://u.muroran-it.ac.jp/hlc/2023/01.pdf>]。

\*【著書】…著書、編書、翻訳書など。【論文集】…定期刊行物以外の文献に掲載された論文など。【定期刊行物】…学術誌、紀要、会誌などに掲載された論文など。

■ 参考資料 ..... 非会員による研究成果刊行物

- 【論文集】岩下明裕「樺太:「存在」の耐えられない軽さ」工藤信彦著、中山大将編『樺太覚書』北海道大学スラブ・ユーラシア研究センター境界研究ユニット、2022 年 8 月 19 日。
- 【著書】上野幹久『ある校長の樺太・台湾旅日記:日本統治時代:祖父の記録から読み解く「領土」と先人の努力』梓書院、2022 年 8 月 1 日。
- 【定期刊行物】岡本愛子「日本の北を旅した人々(3)クルーゼンシュテル:樺太を描く(前編)」『地理』、2023 年 3 月。
- 【著書】川嶋康男『彼女たちは、なぜ、死を選んだのか?:敗戦直後の樺太ソ連軍侵攻と女性たちの集団自決』敬文舎、2022 年 8 月 12 日。
- 【定期刊行物】A・I・コスタノフ(ダリア・コジェブニコワ訳)「樺太庁の史料館(公文書館)の歴史から(1945 年 -1947 年)」『北方人文研究』16 号、2023 年 3 月 25 日。[<http://hdl.handle.net/2115/88713>]
- 【論文集】米家泰作「土地被覆からみた日本帝国」中島弘二編『帝国日本と森林:近現代東アジアにおける環境保護と資源開発』勁草書房、2023 年 2 月 20 日。
- 【定期刊行物】是澤櫻子、細縦雄貴「石田収蔵の野帳等資料の紹介:20 世紀前半の樺太先住民族の暮らしの風景」『国立アイヌ民族博物館研究紀要』、2022 年 9 月 30 日。[<https://nam.go.jp/wp/wp-content/uploads/2022/09/015-koresawa-hosomomi.pdf>]
- 【定期刊行物】佐藤雅子「アイヌの染色 衣服と民具 染材と媒染」『千葉大学ユーラシア言語文化論集』、2022 年 12 月 31 日。
- 【定期刊行物】佐藤正則、三代純平「複言語・複文化話者としてのサハリン残留日本人:複言語・複文化における仲介という観点から」『言語政策』第 19 巻 1 号、2023 年 3 月 31 日。[[https://doi.org/10.57525/jalpjournals.19.1\\_19\\_1](https://doi.org/10.57525/jalpjournals.19.1_19_1)]
- 【定期刊行物】高橋亮一「北方海域をめぐる日露戦中・戦後の日本外交:樺太占領と海獣保護を中心に」『東洋学報』、2023 年 3 月 17 日。【著書】武内優『うたと歴史でつづる樺太:私論・雨情の国境横断踏破考』幻冬舎、2022 年 5 月。
- 【著書】武田修『樺太アイヌと常呂』常呂町郷土研究同好会、2023 年 3 月。
- 【論文集】竹本太郎「本帝国の森林管理:統計資料を用いた数量的な把握から」中島弘二編『帝国日本と森林:近現代東アジアにおける環境保護と資源開発』勁草書房、2023 年 2 月 20 日。
- 【定期刊行物】コジェブニコワ・ダリア「ソ連当局から見る南サハリンの編入とその役割」『道歴研年報』、2022 年 9 月。
- 【定期刊行物】ユリア・ディン(ヴェニアミン・テン訳、中山大将監修)「サハリン朝鮮人研究の資料と研究:露日韓英各国語の研究状況」『境界研究』、2023 年 3 月 31 日。[<https://src-h.slav.hokudai.ac.jp/publicctn/JapanBorderReview/no13/PDF/09.pdf>]
- 【著書】M.M. ドプロトヴォールスキ(寺田吉孝、安田節彦訳)『アイヌ語ロシア語辞典』共同文化社、2022 年 11 月 10 日。

\*【著書】…著書、編書、翻訳書など。【論文集】…定期刊行物以外の文献に掲載された論文など。【定期刊行物】…学術誌、紀要、会誌などに掲載された論文など。

- 【定期刊行物】富田幸祐「樺太野球史の一断面:「樺太野球史」を手掛かりとして」『』51 号、2022 年 8 月。[<http://id.nii.ac.jp/1444/00001662/>]
- 【定期刊行物】永野正宏「1850 年代後半、箱館奉行による種痘での痘苗」『国立アイヌ民族博物館研究紀要』、2022 年 9 月 30 日。
- 【著書】中山隆志『一九四五年夏最後の日ソ戦 改版』中央公論新社、2022 年 11 月 22 日。
- 【論文集】中山智香子「二つのクロニクル:『樺太覚書』に寄せて」工藤信彦著、中山大将編『樺太覚書』北海道大学スラブ・ユーラシア研究センター境界研究ユニット、2022 年 8 月 19 日。
- 【論文集】エドワルド・バルイシェフ「革命・内戦期の北サハリンとイヴァン・スタヘーエフ商会の活動」原暉之、兎内勇津流、竹野学、池田裕子編『日本帝国の膨張と縮小:シベリア出兵とサハリン・樺太』北海道大学出版会、2023 年 3 月 11 日。
- 【論文集】早川尚志「小樽から見たオーロラと太陽地球環境」醍醐龍馬『小樽学:港町から地域を考える』小樽商科大学出版会、2023 年 3 月 31 日。
- 【定期刊行物】日座久美子「『樺太・薩哈噠(サガレン)(北樺太)絵葉書アルバム帳』から日本近代期のサハリン島を探る」『非文字資料研究センター News Letter』、2023 年 3 月 20 日。[<http://hdl.handle.net/10487/00018487>]
- 【定期刊行物】Yann Favennec「戦前の『北洋漁業』時代における日露漁業水域をめぐる地政学的研究:北海道と樺太およびカムチャッカに着目して」『北日本漁業』、2022 年 8 月。
- 【論文集】松田晃「テキスト開け、鉛筆を執とう:四十年目の補講に寄せて」工藤信彦著、中山大将編『樺太覚書』北海道大学スラブ・ユーラシア研究センター境界研究ユニット、2022 年 8 月 19 日。
- 【論文集】福元満治「問い続け、書き続ける人」工藤信彦著、中山大将編『樺太覚書』北海道大学スラブ・ユーラシア研究センター境界研究ユニット、2022 年 8 月 19 日。
- 【定期刊行物】藤田祐史「ソ連解体後の樺太文学」『金城日本語日本文化』、2023 年 3 月。
- 【論文集】船木幹也「畏友工藤信彦君への手紙」工藤信彦著、中山大将編『樺太覚書』北海道大学スラブ・ユーラシア研究センター境界研究ユニット、2022 年 8 月 19 日。
- 【著書】テッサ・モーリス=鈴木(大川正彦訳)『辺境から眺める:アイヌが経験する近代 新装版』みすず書房、2022 年 5 月 19 日。
- 【著書】吉原裕『間宮林蔵北夷分界余話の謎その解明の試み(ある偽書の研究)』吉原裕、2022 年 4 月。
- 【定期刊行物】Gaston R. DEMARÉE, Yoshio TAGAMI, Patrick BEILLEVAIRE「William Robert Broughton's voyage of discovery to the North Pacific and expedition of the Strait of Tartary / Mamiya Strait」『Okhotsk Sea and Polar Oceans Research』7 号、2023 年 2 月 1 日。  
[[http://okhotsk-mombetsu.jp/okhsympo/\\_userdata/2023Gaston%20Demaree.pdf](http://okhotsk-mombetsu.jp/okhsympo/_userdata/2023Gaston%20Demaree.pdf)]
- 【著書】『昭和前期商工信用録 第 2 期第 12 巻 昭和 15 年(4)』クロスカルチャー出版、2022 年 11 月。

\*【著書】…著書、編書、翻訳書など。【論文集】…定期刊行物以外の文献に掲載された論文など。【定期刊行物】…学術誌、紀要、会誌などに掲載された論文など。

## —研究プロジェクト—

(代表者五十音順)

■小川正人 ..... 先住民族史

[継続]小川正人(北海道博物館)「近代日本におけるアイヌ民族の〈社会への参画〉の歴史に関する基礎的研究」科学研究費補助金・基盤研究(C)、2020-2023 年度。

■加藤絢子 ..... 先住民族史

[継続]加藤絢子(九州大学)「帝国臣民になることの意味：漁業権と日本国籍付与をめぐる樺太先住民族の政治的活動」科学研究費補助金・若手研究、2020-2023 年度。

■醍醐龍馬 ..... 外交史

[新規]醍醐龍馬(小樽商科大学)「近代日露関係の平等性に関する研究—ロシア側未刊行史料からのアプローチ」科学研究費補助金・挑戦的研究(萌芽)、2022-2024 年度。

■竹野学 ..... 日本経済史

[継続]竹野学(北海商科大学)「移住植民地樺太の工業化と都市形成に関する研究」科学研究費補助金・基盤研究(C)、2021-2023 年度。

■兎内勇津流 ..... ロシア史

[最終]兎内勇津流(北海道大学)「シベリア出兵と東アジア国際環境の変動」科学研究費補助金・基盤研究(B)、2019-2022 年度。

■中村和之 ..... 北東アジア史

[継続]中村和之(函館工業高等専門学校)「サハリンアイヌの交易と文化変容、その学際的研究」科学研究費補助金・基盤研究(B)、2020-2023 年度。

\* 掲載している研究プロジェクトは、本会関係者が代表者をつとめるもののうち、サハリン樺太史関連のもののほか、周辺地域・領域をテーマにする物も含んでいる。[新規]…今年度より開始したもの。[継続]…中間年度にあたるもの。[最終]…最終年度にあたるもの。[単年]…今年度開始した単年度のもの。



■中山大将 ..... 移民社会史

[単年]中山大将(釧路公立大学)「残留の比較史研究:シベリア・サハリンから台湾・東南アジアまで」北海道大学スラブ・ユーラシア研究センター「スラブ・ユーラシア地域(旧ソ連・東欧)を中心とした総合的研究」共同研究、2022 年度。

■パイチャゼ・スヴェトラナ ..... 教育学

[最終]パイチャゼ スヴェトラナ(北海道大学)「韓国の安山市におけるサハリン帰国者のホスト社会への適応問題:若い世代を中心に」科学研究費補助金・基盤研究(C)、2020-2022 年度。

■参考資料 ..... 非会員による研究プロジェクト

"[継続]浅倉有子(上越教育大学)「モノ資料からみる近代アイヌ社会と文化研究課題」科学研究費補助金・基盤研究(B)、2021-2023 年度。"

[最終]小口雅史(法政大学)「古代末期防御的集落の実態解明と、中世移行期日本北方世界を含む北東アジア史の再構築」科学研究費補助金・基盤研究(B)、2019-2022 年度。

[新規]ノヴァコフスキ カロル(東北公益文科大学)「言語の記録保存のための音声認識技術の研究:樺太アイヌ語に着目して」科学研究費補助金・若手研究、2022-2026 年度。

[継続]佐藤丈寛(金沢大学)「古代ゲノム解析による東アジア:シベリア境界領域における人類集団の変遷の解明」科学研究費補助金・基盤研究(B)、2019-2023 年度。

[継続]鈴木琢也(北海道博物館)「北方交易の展開にともなう擦文文化集団の拡散についての考古学的研究」科学研究費補助金・基盤研究(C)、2020-2023 年度。

[継続]澤田和彦(埼玉大学)「近代日露交流史の諸問題に関する実証的研究」科学研究費補助金・基盤研究(C)、2020-2024 年度。

[継続]福田正宏(東京大学)「日露共同調査によるサハリン新石器時代社会形成過程の解明」科学研究費補助金・国際共同研究加速基金(国際共同研究強化(B))、2021-2025 年度。

[新規]福田正宏(東京大学)「宗谷海峡域における新石器/縄文時代生活史の実態解明」科学研究費補助金・基盤研究(B)、2022-2025 年度。

[継続]吉田さち(跡見学園女子大学)「在日コリアンおよび在樺コリアンにおける言語接触・方言接触に関する社会言語学的研究」科学研究費補助金・基盤研究(C)、2020-2024 年度。

[継続]BAEK SANGYUB(室蘭工業大学)「サハリンエウエンキ語の記述:サハリンにおける言語接触とその歴史的変遷の解明」科学研究費補助金・若手研究、2021-2025 年度。

\* 掲載している研究プロジェクトは、本会関係者が代表者をつとめるもののうち、サハリン樺太史関連のもののほか、周辺地域・領域をテーマにする物も含んでいる。[新規]…今年度より開始したもの。[継続]…中間年度にあたるもの。[最終]…最終年度にあたるもの。[単年]…今年度開始した単年度のもの。

## サハリン・樺太史研究会会則

2015 年 6 月 21 日改正

2011 年 5 月 28 日改正

2009 年 5 月 16 日採択

1. 本研究会はサハリン・樺太史研究会と称する。
2. 本研究会は、サハリン・樺太を対象地域とし、主として歴史分野に関する研究の促進と研究者の交流を目的とする。
3. 本研究会は、その目的を達成するために次の事業をおこなう。
  - (1) 定例研究会(例会)・シンポジウムなどの開催。
  - (2) 共同の研究・調査、およびその成果の公開。
  - (3) サハリンの大学・研究機関との交流、情報交換および共同研究の促進。
  - (4) その他本研究会の目的を達成するために適当な事業。
4. 本研究会は、サハリン・樺太の歴史に関心があり、その目的に賛同し、事業に協力する個人の会員からなる。
5. 新年度最初の例会時に総会を開催する。総会は本研究会の最高議決機関であり、総会の議決は原則として出席会員の過半数によって成立する。
6. 本研究会には次の役員をおく。

世話人(若干名)・会長(1名)・副会長(1名)・事務局長(1名)。
7. 世話人は総会で選出し、世話人の互選により会長・副会長・事務局長を選出する。
8. 会長は本研究会を代表し、会務を統括する。
9. 副会長は会長を補佐し、会長に事故あるときはその職務を代行する。
10. 本研究会に事務局をおく。事務局長は会長・副会長のもとで本研究会の事務全般を担当する。
11. 役員任期は2年とする。ただし再任はさまたげない。
12. 本会則は2015年6月から発効する。本会則の改正は役員議を経たのち総会の議決による。

---

### サハリン・樺太史研究会役員(2022年度末現在)

2015年6月21日選出

2016年8月26日追加選出(\*)

2017年7月22日追加選出(\*\*)

2019年6月29日追加選出(\*\*\*)

会長：白木沢旭児

副会長：天野尚樹

事務局長：鈴木仁

世話人：井潤裕、醍醐龍馬(\*\*\*)、竹野学、兔内勇津流(\*)、中山大将(\*)

